関西大学
経済・政治研究所

第245回
産業セミナー

対象者　経営者、企業・行政関係者、社会人、一般

近代関西経済の発展とアジア・アフリカの国際関係史研究班

1920年代 企業家の発明活動 と 1930年代 外国為替銀行のサービス

実施方法　ハイブリッド型（対面参加は先着50名）

聴講無料

日時開催　2021 7/21（水） 13:00～16:10

会場　関西大学 梅田キャンパス 8F大ホール
大阪府大阪市北区鶴野町１番５号

テーマと報告者

第1報告

大正・昭和初期 大阪における発明活動

研究員　関西大学 商学部・教授　西村 成弘

日中戦争期まで工業生産額で東京を上回る日本最大の工業都市であった大阪では、「東洋のマンチェスター」と称された繊維産業だけではなく機械、金属、化学、雑貨など多様な産業が発展していた。他方、工業活動における革新の指標となる特許・実用新案の新規登録件数は1920年代とくに昭和期に入ると急拡大し、工業発展の在り方に変化があったことをうかがわせる。本報告では、特許書誌情報の分析を通して、同期間の大阪において企業家・発明家がどのような発明活動を行ったのかを探る。

第2報告

1930年代の 神戸における中国系商人と 外国為替銀行の関係：準備的考察

主幹　関西大学 経済学部・教授　西村 雄志

大恐慌の後、金本位制からの離脱と高橋是清蔵相を中心とした積極財政を背景として、1930年代の日本の対外貿易は回復基調にあった。特に日本の対外貿易に占めるアジアとの関係は、この時期に急速に緊密化していた。そのような貿易環境の中で神戸は日本の対アジア貿易の拠点として綿製品や雑貨の輸出を軸に発展を遂げていた。特に中国系商人はその中でも中心的役割を担っており、本報告では彼らの貿易活動に対して提供されていた外国為替銀行からのサービスに焦点を当てて検討する。

お知らせとお願い

対面でのご参加をご希望の方

○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事前申込制（先着順）とさせていただきます。
○新型コロナウイルス感染症の拡大状況、社会状況によっては、オンライン配信のみでの実施となる場合がございます。その際にはお申込みいただいた方にご連絡いたします。
○実施方法に変更が生じた場合、経済・政治研究所のホームページ、SNS等にてアナウンスいたしますので、ホームページ等をご確認くださいますようお願い申し上げます。

オンライン配信での参加をご希望の方

○後日、当日のZoom事前登録URL、注意事項等をメールにてご案内いたします。

事前申込制

対面参加は先着：50人
申込〆切：7月16日（金）17：00

申し込みフォームを利用されない方は、氏名・ふりがな・所属・連絡先（電話番号・メールアドレス）・参加人数・参加方法（来場orオンライン）、件名に「7/21セミナー申込」を明記の上、下記のお申し込み先（関西大学　研究所事務グループ）までハガキ、FAX、E-mail（keiseiken0401@gmail.com）でお申込みください。

主催　関西大学経済・政治研究所
後援　大阪商工会議所　大阪市工業会連合会
大阪市産業経営協会　株式会社りそな銀行

関西大学
関西大学研究所事務グループ
〒564-8680 吹田市山手町3丁目3番35号 E-mail:keiseiken0401@gmail.com
TEL(06)6368-1179／FAX(06)6339-7721

参加者の皆様におかれましては、感染防止策を講じて頂きますようご協力お願い申し上げます。

最新情報発信中！ ぜひフォローをお願いします。
@touzaiken.keiseiken.hogakuken
［東西研・経政研・法研］関西大学3研究所合同
@KU_kenkyusho　関西大学文系３研究所